

婦人子ども

第十四卷  
第七號



大正三年七月五日

フ  
レ  
ー  
ベ  
ル  
會

第十四卷第七號目次

科學の進歩と兒童研究

高島平三郎

教育上から見た子供の模倣全盛期

福島政雄

『ポール・ドンビー』(一)

岡田みつ

保育入門 (六)

倉橋惣三

幼稚園教育と美的陶冶

倉橋生

雜錄

フレーベル自傳 (第七回)

倉橋惣三譯

本誌定價

一冊郵税共金拾壹錢 六冊前金郵税共六拾錢  
拾二冊同金壹圓貳拾錢 郵券代用一割増  
購讀申込

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替貯金にて御拂ひ  
込み下さい。直に御送本致します。(振替口座東京一七二六  
六番)

本會宛御用務

本會宛諸般の御用務は左の如く願ひます

(庶務上保姆紹介に關する件をも含む)の御手紙は  
東京市小石川區久堅町七十四番地フレーベル會事  
務所宛

會計事務は東京女子高等師範學校附屬幼稚園内、  
雨森劍宛

本誌編輯の御用務(寄稿、廣告等)は東京府下代々  
木山谷一二四倉橋惣三宛

大正三年七月四日印刷  
大正三年七月五日發行

東京府豊多摩郡代々幡村大字代々木山谷一二四  
編輯兼發行者 倉橋惣三

印刷者 東京市本所區番場町四番地 登

印刷所 東京市本所區番場町四番地 登

發行所 東京市小石川區久堅町七十四番地  
フレーベル會

## 本會夏期講習會期日變更

本會夏期講習會七月二十七日より八月五日に至る十日間開催の旨本誌前號に豫告致置候處其の後都合により八月一日より同十日に至る十日間開催のことに變更致候 尙ほ詳細は本號の廣告に就て御承知下され度く。熱心なる諸君の多數御來會を希望致候。

七 月

フ レ ー ベ ル 會



裏面の廣告を注意せられよ



# 幼兒教育夏期講習會

期日 八月一日より同十日まで（毎日午前八時より）

場所 東京女子高等師範學校内に於て

## 科目及講師

一、幼兒教育に於ける美的陶冶の基礎（十二時間——一日より六日に至る）

文 學 士 菅 原 教 造 氏

二、裝飾と器具 三、繪畫と色彩 四、音樂と音聲 五、運動と表情 六、右に關する實驗供覽

一、幼兒教育に必要なる手技實習（二十時間——一日より十日に至る）

東京女子高等師範學校 助 教 藤 五 代 策 氏

一、粘土細工及其の簡易着色實習 二、簡易玩具の製作實習

右用具として、切出小刀、木鏟、コンパス、物指、小錐、小金鏈、小鋸、喰切、ヤットコ（以上一組箱入金九拾錢）を要す。此の工具は成るべく各自御持参なされ度く、尤も不足工具に就には便宜本會より供給方御周旋致すべし。

一、**幼児教育に於ける訓育**（八時間——七日より十日に至る）

東京女子高等師範學校  
講師 文 學 士

倉 橋 惣 三 氏

一、幼児教育に於ける訓育の意義

二、幼児訓育の教育心理的基礎

三、幼稚園に於ける訓育の機能

聽 講

金貳圓。（會員二割引）別に手技材料費約四拾錢

宿 泊

地方より來會の御婦人方にて宿泊を希望せらるゝ方々の爲に本會にて其の御周旋申上ぐべし。（一日の宿泊料食費一切凡そ四拾錢。シート。枕覆ひ等は御用意ある方よろしかるべし。）

申 込

東京市小石川區久堅町七十四番地フレーベル會事務所（前日まで）  
（宿泊御希望の方は殊に七月二十五日迄に申込まれたし）

大正三年七月

フ レ ー ベ ル 會

顧問 高島平三郎先生

# モドコ

每月一回

日本一

綺麗な  
白育的  
面教

畫雜誌

定價

一冊拾錢  
郵稅五厘  
六冊分前  
金郵稅共  
五十八錢  
十五圓拾  
壹圓拾錢

モドコ 社發行

東京市小石川區林町五七  
振替東京市二丁目九七三

本園ニ於テ主任保

姆ヲ招聘ス

就任志望ノ向ハ理事宛ニテ至急履歷書

御送附有之度候

千葉縣印旛郡成田町

私立 成田幼稚園

理事 三橋重郎兵衛

# 科學の進歩と兒童研究

—(フレイベル會の六月例會講演)—

高島平三郎

私は相變らず自分のしらべて居る子供のお話を致します。科學の進歩につれて、子供の研究が如何に進んで來たかと云ふやうな事をお話して見たいと思ひます。テニソンの詩に壁の破れ目に咲いて居た小さな花を歌ふたものがあります。見るかげもない微かな花であるが、もし此花全體を知ることが出来るなば、宇宙全體を知る事が出来る。此の花の中には神もあれば全宇宙も宿つて居るといふやうな事がありました。これは眞理であると思ひます。どんな微細なものでも、その全體を知事は恐らく何人にも不可能の事でありませう。そこに飛んで居る蝶一つでも、之を悉く理解する事は容易のわざではありません。多くの科學の多方

面の研究の結果によつて、少しづつ解つてくるのです。子供は蝶や花よりも遙に複雑であるだけ、之を承知する事も困難です。子供といふものが、學問の光に照らされるやうになつたのは、つひ近頃の事です。特に三十年此方があります。

(一)子供の研究に根據を與へるものは生物學です。生物學の發達しない頃は、子供は胎内にある最初から、ちやんと人間の形をそなへた豆人形のやうなもので、これがだん／＼大きくなるのであると考へられて居た。従つて子供は大人の小さなものであつて、別に變つた所はないと思はれて居た。然るに子供は初め細胞であつて、それが次第に人間の形を備へるやうになるのである。如何なる順

序で如何なる有様でと云ふ事を研究したのが生物學である。獨逸のヘッケルが、人間はその成長までに、凡べての下等動物の階級を経るものである。

人間が育つまでには、生物全體の過程をくりかへすのであると云ふ事を發見した。それで、子供が野蠻で動物のやうな状態を現はしても、そんなに驚く必要がなくなつたのです。但し、子供が野蠻状態にある時といへども、人格の萌芽は持つて居るのであるから、此事は頭において、人格に對する尊敬は失はぬやうにして接してやる事を忘れてはならないのです。

(二)生物學について發達したのは生理學です。近頃は其局面を、一變するほどに進歩して來たのです。子供の胎内にある時、母の乳房は大きくなつて、乳の出る機關はちやんと備はつて居るのであるが、なせ、分娩後にならなければ乳が出ぬかなど云ふ事を研究して見ると、人間の生理を司る作用に、開路作用と禁止作用の二つがある。酒をの

めば、血行が盛になつたりする、之が開路作用で消極的に之を止めるのが禁止作用です。母乳も、胎兒の身體から分泌する液によつて、禁止作用が行はれるので、分娩まで乳が出ないのであるといふやうな事が解つて來たのです。また、人間の咽喉に甲状腺といふのがある、それが今まで何の用をなすものかわからなかつたのが、之は人の身體が育ち、智慧の發達するに欠くべからざるものである事がわかつて來ました。即ち甲状腺から分泌する液が腦を養うて、その發達を大に助けて居るのです。それで智慧の發達の遅い子供などは、或は、此甲状腺が制限せられて、十分にその用をなさない結果かもしれないのです。さういふ時には他の動物の甲状腺の液を取つて、之を注射するやうな工夫にでもすれば、或は今後馬鹿につける薬がある事になるでせうと思はれます。とにかく、此甲状腺といふのは、知惠の發達に大關係をもつて居るのであるから、常に注意して、此腺に異常



はありはせぬかと見てやる事が大切です。殊に頭がぼんやりしたりした時は、醫者につれて行つて特に此腺に注意してもらふ事を忘れぬやうにするがよい。また發達時期にある子供の頭は殊に大切にして、頭に手をあげたり、烈しい日光にさらしたりする事は絶體に禁じなければなりません。頭が中心になつて、身體の全部を支配して居るので、手を動かすも、足を動かすも、立つも、坐るも皆頭がはたらいてやつて居るのです。人間のほたらきは、悉く頭の關係しないものはないのです。掃除をするのも頭がして居るのです。その證據には、無教育の下女よりも、教育のある婦人の方が上手にします。もし女學生が、下女よりも下手な掃除をするやうならば、それは掃除をする頭の中樞が、下女よりも發達して居ないので。子供の時から、あらゆる方面に頭腦を發達せしむるやうに注意すべきです。

(三)次は人類學です。これは大層ひろい學問です。

人間の身體や、心理狀態を研究する學問です。これは諸種の人種を比較研究する事が大切です。子供の研究が人類學に助けられた事は少くありません。たとへば、赤ん坊の身體について居る兒斑のやうなのがある。これは、日本では、天狗さんにつままれたあとなどと云つてすまして居るが、白色人種の赤ん坊にはこれがない。而して有色人種殊に黒ん坊などには著しく、動物のは更に鮮明である。故に白人種は説をなして、此兒斑は下等動物の徽章であると云ひ出した。甚だ殘念ではあるが之が反證のあがらない間は、黙つて引つ込んで居るより仕方がなかつた。之を憤慨した足立文太郎君が、大に此兒斑を研究した。獨逸に渡つて、熱心に調べた結果、組織學の上から見れば、西洋人の赤ん坊にも兒斑の存在する事を發見した。色素が少いから、之が表面に現はれないだけであるといふ事がわかつた。そこで、兒斑の鮮明なのが決して動物に近い證據にはならないといふ事が明か

になつたのです。又人類學によつて、各人種の子供の育て方などを比較研究して、最適當の方法を講じつゝあるのです。

(四)次に醫學ですが、之は生理學と大に關係をもつて居る。子供の見方も、醫學の方に存外根據のたしかなものがあります、たとへば、子供が、鼻の中の、腺狀殖生などにかゝると殊に注意が散漫になつて、やかましい事をいふやうになる。之を知らない親は、我が儘だ〜と云つて、むやみに叱りつけるやうな事をするのです。耳と鼻と咽喉の病氣は、殊に精神に關係する事が多いから、覺えがわるくなつたり、注意が散亂するやうな時は直に醫者に見せるがよろしい。算術と鼻との關係などと云ふと、一寸をかしいやうですが、私の關係して居る學校で一級の生徒を、その成績によつて上中下の三組に分けたのがありました。私は、その下の方の組には屹度鼻か耳のわるい子供が多數あるに違ひないと考へたから、醫者に頼んで見

てもらひました。すると果して、一番出來ない組には十中の七まで鼻のわるい子供が居ました。そんなのは、自分にやらうと思つても、病氣の爲めに出來ないのです。保護者が、それに氣がつかないで、むやみに、馬鹿呼ばはりをする、自分でも遂に何をしたつて駄目だと自暴自棄を起して、性格の崩れた人間になつてしまひます。人間に自暴自棄ほど恐ろしいものはありません。凡べての罪惡は皆自暴自棄から生ずるのです。更に恐ろしいのは悖徳狂などと云ふのがあつた。こんなのは親が大酒を飲んだ因果かまたは母が妊娠中に非常に心を苦しめたりした結果、形は完全に見えても、神經系統に大なる缺陷が出來て居るのです。

凡そ世の中に恐ろしい病氣が三つあります、アルコール中毒と花柳病と、結核です。これは人類の三大害毒として恐れられて居ます。外にベストや コレラ等がありますが、これ等は、その病氣が、罹病者一代に限られて居ます。然るに、前の

三病は悉く子孫に影響を及ぼすのです。實に人類の強敵です。此強敵を撃退する爲めに、私共はよほどの奮闘をしなければなりません。

學校衛生などもよほど注意せらるべきです。同時にまた教育衛生にも氣を付けなければなりません。此二者の違ひはどうかと云ふと、たとへば學科の制限を設けたり、とれだけの教場に何人生徒を入れるといふやうな事を定めるのは學校衛生の方で、云はゞ機械的の方です。教育衛生といふのは精神上的の衛生です。疲れた時に無理に勉強させるのはよろしくないから、適宜に氣轉をきかして窓をあけて下さいとか云ふやうに、生徒に暫らく自由を與へるやうな種類のものです。教師は必ず學校衛生と共に教育衛生を心得て居なければなりません。

(五)次に心理學ですが、之を一言に説明するのはむづかしい事です。が、つまり心理學の方から考へて、子供の心と大人の心と、心のはたらきに色々

の違ひがある。三つ四つの時、學校時代、大人、老人、それ／＼特色をもつて居る、各相違があるといふ事がわかつて來たのです。最近にわかつた事で、大に注意しなければならぬ事は、學習の心理である。物を習ふに型のある事である。皆同じに物を覺えて居ると思ふと大違ひであると云ふ事である。之を大略四つにわけると出来る。

一、感受の方面 見るとか聞くとかする事から覺える。此方面が物を覺える最初である。

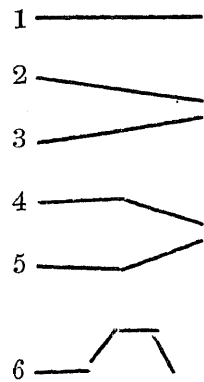
二、動的の方面 即ち手を働かすとか、足を動かすとか云ふ運動の方面から物をさとするのである。

三、聯合の方面 或物に聯想をつけて物を覺えるのです。

四、論理の方面 これは理屈で覺えるので最進んだ覺え方です。

今一つ、こゝで申したい事は、子供の發達にも型のある事です。進歩の度が一定したものでない事

です。



假令ば1の如く平々坦々と進行するもの、2の如く、漸次進歩の度の下落するもの、3の如く漸次向上するもの、4の如く一度向上して、後下落するもの。5の如く4の反對なるもの、6の如く變化極りなきもの等進み方にいろいろの形があるのです。教育者または保護者は之を知悉して居て失望する事なく、驚喜する事なく、適宜に之を指導すべき事です。——ステルンは一人々々の心の違ひを研究して、個性の擁護を大に主張しました進歩の度に相違ある如く、心のはたらきも名々違つて居るのであるから、此事もまた深く心にとめて、自分の氣質にあはぬからと云つてむやみに憎んだり、えこひいき沙汰などのないやうに公平に

取扱うてやらなければなりません。兄弟と云へども、同じ性質といふのは一人もありません、その個性に應じて、之を教育して、その天性を全うするやうにせねばなりません。

(六)次は社會學ですが、これは極新らしく開けた學問である。社會學に基いて、人類の幸福は増進せられんとしつゝあるのです。此學問の方から勞働問題、婦人問題、子供の問題など盛に起つて來たのです。時間が無いから、こゝに問題だけを提出しておきます。

第一、子供の數を減じやうといふやうな傾向が、此頃歐洲あたりでは表はれて居る。他事ではない日本も早晚、さういふ事に立ち至らんとして居るこれは國力疲弊の恐るべき原因になりますから、極力防止しなければなりません。

第二、嬰兒の保護問題、世界中、嬰兒の死亡律の最多いのはロシアのモスコで百に對する三十六之に次ぐのは我國の大阪で百に對する三十です。

こんな事の二番はあまり名譽ではありません。何とか今少し嬰兒の保護を加へたいものです。

第三、兒童遊戯場の問題。遊ぶのは子供の権利です、遊んで退屈するとも退屈したから遊ぶのでありません。遊ばなければ發育が出来ないので。

それに社會がその遊び場を設けてやらす時間も與へてやらなければ、子供は直に社會に意趣がへしをします。掏摸や、かつばらひがそれです。

第四、子供の讀物の問題、子供が讀物によつて影響せられるといふ事も少くありませんから心すべき事と思ひます。

第五、子供の裁判所といふやうなものを設立してもらひたい。そして、その裁判官は兒童心理や、教育學を心得て居て、之を罪するのではなくして、之を改悔せしめるやうにしてもらひたい。

第六、子供の労働問題、つひ街道へ出て見ると、荷車の後押しや、新聞賣りを、十かそこらの子供が必死になつてやつて居るのですが、經濟上やむ

を得ぬとは云へ、慘酷な話です。此間も、新聞の報導を見て、私は覺えず落涙しましたが、紀州のある工場では、女工が四十八時間も立てつゞけに労働を強いられて居るといふのです。こんな事は實に人道問題です。どうか平和時代のナイテンダールがあらはれて、救濟の道が一日も早く講じられん事を祈つてやまないであります。

第七、幼稚園問題です。幼稚園の設立は子供の幸福を進める一の方法であるから之を忽にする事なく、西洋の如く下流社會に限らるゝ事なく、また我國の如く上流の専有物とする事もなく、いろいろの種類の幼稚園の設立されん事を希望いたして居ります。

(七)最後に残つて居る大問題は教育の問題です。低能兒や不良兒の教育は云ふまでもなく、現今の小中學校から、高等學校大學に至るまで凡べて完全ではありません。缺點だらけです。之れは文部省はじめ皆心配して居られるのです。まづ幼稚園

でも、志望者が多くて困る時は入學試験をします  
子供は三つの時から落第の經驗をします。そ  
れから中學校高等學校の入學試験は皆血を吐く思  
ひです。思ひだけでなく、高等學校には入れな  
かつた爲めに、實際血を吐いて死んだ人もありま  
す。どんな偉い人も、試験の爲めに、その精力の  
大  
半を吸収せられつゝある始末です。此の問題には  
皆頭を痛めて居るのですが、まだ解決がつかない  
のです。之を一人に任せるといふ事は無理な注文  
ですから皆協力して最良の方法を講ずる事に進ん  
で努力すべきであらうと思ひます。自分が當局で  
ないからしらぬ顔に打ち過すなどはよろしくな  
いと思ひます。

殊に婦人は、ともすれば見聞がせまく、頭が狹

隘になりやすいから、進んで興味をひろくもつや  
うに、なるべく多く物事を見たり聞いたりして、  
出来るだけ智識を開發せられん事を切望いたしま  
す。直接に關係のないやうに見えても、とんでも  
ない處に關係のある事が多くあります。殊に幼児  
の保育などには、各種の智識を要します。多い子  
供の遊び相手をして居れば、學問などなくてもよ  
いのはありません。その根本に遡れば遠く哲學  
にまで通曉して居なければなりません。フレーベ  
ルの保育説なども哲學に其基礎をおいて居るので  
す。どうぞ、フレーベル會の皆さんは、なほ熱心に勉  
強なされて、學問の上に深く興味を持つて、子供  
を保育して下さるやうに切に御願ひいたしておき  
ます。(文責記者、校閱を経ず)

## 教育上から見た子供の摸倣全盛期

兒童發達の最初の一年間位は人間を模倣するこ  
とが多いと言つても、其の模倣するに當つては、  
時に、人を人として意識して模倣することは少く  
無意識的な反射的模倣の方が寧ろ多いのである。  
嬰兒も同じ人間で、人間の身體の有機的組織を持  
つて居ればこそ人間の模倣することが多いのであ  
るけれども、其の模倣する時には、人と物との區  
別を判然と意識して居るわけではないことは明か  
である。其の模倣は頗る受働的である。所謂去る  
ものは追はず來るものは拒まずとでも言つたやう  
な態度で、人が來れば人を模倣し、物が來れば物  
を模倣しやうといふ傾向が、其の時々に従うて發  
現して來るばかりである。未だ決して、其の模倣  
しやうとするものを豫期するといふやうな心的情  
態は認められぬのである。然るに、兒童が次第に  
發達して來ると、何時とはなしに變つて來る。先  
づ、運動するものと運動しないものとの識別をし  
て、運動するものには特に注意するやうになる。

更に進めば、運動するものゝ中でも、人と物とを  
區別するやうになる。人と物とを區別するやうに  
なる頃となれば、兒童の興味は特に人に向つて集  
注せらるゝやうになる。此處まで進めば、此の章  
で述べやうとする模倣の時期に入るのである。此  
の時期を特に、人格の模倣の萌芽期と名けて置か  
う。即ち人格の模倣の萌芽期とは、兒童が特に人  
に對する被暗示性の著しく發現して來る時期を稱  
するのである。

人格の模倣の萌芽期に就いては、ボルドウイン  
氏が詳細に論じて居る。それで以下ボルドウイン  
氏の論を紹介して、且つ、余が考を述べることに  
しやう。ボルドウイン氏によれば、兒童は既に生  
後第二ヶ月の頃ともなれば、其の抱かるゝ時の心  
持などによつてよく母親や乳母などを其の他の人  
から識別する。母親や乳母の抱いたり撫でたりキ  
スするのに、其の特有のところがあるのを、子供  
は鋭敏に感受する。かくして、子供は母親や乳母

から自分を取扱つて貰ふ特有の方法全く順應してしまつて、其の手に抱かれて居る間はおとなしくして居るが、一寸でも他人の手に抱かれると直にこれを感じして烈しく反抗する。その感じの鋭いこと實に驚くばかりである。これは母親や乳母の子供を取り扱ふ方法が、不知不識の間に子供に母親や乳母の人格を暗示するものであると解すべきものである。而して、子供にとつては斯様な「人格の暗示」の感せられて居るか否か直に現在の幸不幸を定むる譯となるのである。即ち母の手に抱かれて居るといふ感は、子供にとつて幸福なる感であつて、他人の手に抱かれて居るといふ感は子供にとつて不幸なる感である。斯様に子供が人間に對する感じは、人間以外の物に對する感じとは全く異つて居る。嬰兒が物に對する感じは其の食慾を満足させる物を除くの外は人間に對するほど切實ではない。反之、人間は嬰兒にとつて愈々益々大切なるものとなつて、嬰兒に對する快苦の

主宰者となる。人間の動作及びその嬰兒に及ぼす影響は、嬰兒が「人を感じる」の最初期に於て最も重要なものである。それから次第に子供が生長して來れば、聲によつて人を識別するやうになり、遂には顔及びその表情などによつて識別するやうになる。

ボルドウィン氏は更に此事に就いて自身の實驗の結果を述べて居る。ボルドウィン氏の子供は氏が暗中で出来るかぎり乳母の手つきなどを真似して抱き歩いても矢張り泣き叫んだ。乳母や母親以外の人がその子を抱いて靜に坐してでも居れば、その子はまあおとなしくして居たけれども、一度其の人が立ちあがつて、乳母や母親の真似をして歩きはじめでもしやうものなら、忽ち烈しく泣き叫んだ。其の動き方歩き方が何となく違ふといふ事が子供に直に感せられる。其の故は、いつでも子供が身體の工合が氣持よくない時などに、母親か又は乳母から取り扱はるれば、直に氣持よく愉快



になるのに、他の人から取扱はれる時には何とな  
く工合が違つて、いつものやうに心持よくならぬ  
此に於てか、子供には、見識らぬ人に取扱はれて  
居るといふ「感じ」が鋭敏にはたらく。そこで泣  
き叫ぶといふ譯になるのである。斯様に子供が  
其の母親又は乳母から抱かれて居るといふ温かな  
感じを持つのは、如何なる要素を條件として居る  
かと尋ねて見れば、随分偶然的の事がその要素と  
なつて居る。たとへば乳母の動き方とか、身振り  
とか、奇妙な癖とかい、子供をして自分は親しい  
人に抱かれて居るといふ温かな感じを起さしむる  
に十分なる要素となるものである。ポルドウイン  
氏の子供の一人は、氏が歌ふ唱歌の調子を二つ聞  
き知つて、夜でも其の唱歌の調子をさけば、氏が  
側に居ると感じて安心した。他の唱歌を歌つても  
此の子供を落ちつかせることは出来なかつた。そ  
れから今一人の子供は、食物を求めて泣く時は燐  
寸を擦つて火をともしれば直に泣き止んだ。尤も火

をつけてから食物を整へるまでには大分時間を要  
したのであるが、其の最初の點火と共に泣き止ん  
だのである。而して他の事で泣く時には、燐寸に  
點火したからといつて決して泣き止むことはな  
つた。

以上は大體ポルドウイン氏の所説であるが、今  
これによつて考へて見れば、嬰兒が、最初には、其  
の身を取り扱はるゝ時の心持によつて、人の識別  
をするといふことは争はれぬ事實である。嬰兒は  
母の顔を知り母の聲を知る前に、既に、母によつ  
て取扱はるゝ事が他人によつて取り扱はるゝより  
も如何ほど自身に心持がよいかといふことを鋭敏  
に感ずるものである。即ちポルドウイン氏の論じ  
て居る通りに、嬰兒は母親乳母など常に己れに親  
近して居る人の個性としての特質を感知して、一  
度此の特質に順應すれば、それから後は此の特質  
を現在身に感じて居るといふ事は嬰兒自身にとつ  
ては必要缺くべからざる安寧の條件となつて、そ

れを現在身に感じて居なければ直に不安缺乏の感を惹き起すこととなる。此の如くにして、母親や乳母に於ける特質を感知すれば、それが嬰兒の一般感覺に於ける一種の習慣となるものである。習慣といふものは或る點に於ては快苦の境を超越するものである。ポルドウィン氏は、嬰兒に一種の苦痛がある時母親乳母などが來つて其の動作によつて嬰兒の苦痛を去り、こゝに快感を惹き起すといふやうな道行即ち「苦痛——動作——快樂」の過程を以て、嬰兒が母親や乳母と他人とを感知識別する根本として居る。斯様なことも固より重要な事實であることは争はれぬ。さりながら、嬰兒は必しも他人に取り扱はるゝのは苦であるから他人を避くるのであると定つて居るものでもない。また母や乳母に抱かるゝことを喜ぶのは、必しも快であるからと明かに認められないやうな場合もある。時としては、母や乳母に抱かるゝ方が苦痛であるといふやうな場合にも、嬰兒はなほ母親や

乳母の懷に抱かれてはじめて落ちつくものである。これは、外觀上は苦と見えても嬰兒にはそれがかへつて快であるからであると解釋しても宜しいかも知れぬけれども、實際母親や乳母に抱かるれば正しく窮屈で確かに苦しいに相違ないやうな場合でも、嬰兒は窮屈な目にあひながらも、なほ母親の懷に於てはじめて落ちつくものゝ少からぬことを考ふれば、これは全く、嬰兒が習慣的に母親や乳母の特質とよく順應して居るために、寧ろ快苦の境を超越して、如何なる場合にでも母親や乳母の懷に於てはじめて眞の温か味を感じるからであると解する方が正當ではあるまいか。燐寸の點火といふ事が嬰兒の泣き啼ぶのを停止したのも習慣によるのである。故に、嬰兒が人間といふものに就いて識別を爲し始むる時期の心的情態は、豫期の心的情態にあると言つて宜しい。即ち母親や乳母から取り扱はるゝ時に感ずる温か味を待ち望んで居る心の有様である。同一の事が繰り返さるゝこ

とを待ち望んで居るのである。

併しながら、人格といふものは複雑なるものである。生きた人間は單純なるものではない。故に此處に一つ考へなければならぬことがある。嬰兒が母親や乳母などの一定の特質を豫期するといふことはなるほど事實であるけれども、更に考へて見れば、嬰兒にとつては、物と相對して居る生きた人間といふもの、特性は、常に同一の事を同様に繰り返すといふ事に存するといふよりも、寧ろ其の次には爲す事が豫め測り難いといふ事に存するといふ方が正當であらう。嬰兒が手に遊ぶ管の笛は、これを吹けば常に必ず音を發する。其の作用は常に一定して居て、音を發するより外的ことではない。故に、嬰兒はその始めて笛を手にした日から數日たゝぬうちに、自在にこれを遊ぶやうになることが出来る。然るに、生きた人間は斯様に簡單なるものではない。生きた人間の動作が色々な形で現れて來る有様は極めて複雑であつて、常

に同様の音を發するに止る笛などとは到底比較せらるべきものではない。故に、嬰兒が稍々生長するに及んで、生きた人間に對する時には、其の動作を豫知することが出来ない。尤もかく言へば前と矛盾した事を言つて居るやうであるが、決して矛盾したことを述べて居るのではない。前のは極めて初期に當つて母親や乳母などといふ親しく接する人の特定の特質を感知し豫期することを述べたのであるが、今はそれよりも稍々進んだ時期に父親母親乳母などをはじめ一般の生きた人間に對する子供の心の情態を述べて居るのである。さて、此の時期に於ては、子供が父親母親乳母などに對する時、父が自分を如何に取扱はうとするか、母が自分に何を與へるか、乳母が自分に對して何事を禁ずるかなどといふことを豫知することは子供にとつては頗るむづかしい事である。此に於てか此の時期の子供にとつては生きた人間といふものは云はゞ神祕なる作用を有するものと思はれるやう

な傾がある。従つて、子供は人間に對しては、たゞ、その人の爲す所を大なる注意を以て豫期するといふ譯になる。而して、此の豫期の心的情態にある兒童は最も感受性に富んで居るものであつて暗示を受け易く暗示を受け易い爲に直に模倣をするといふ次第になる。ホルドウィン氏は人格の模倣の萌芽期は實に此の時期であると論じて居る。

氏の論を辿つて見れば次の通りである。模倣といふことが發現して子供の生活に於て極めて重要な地位を占めるやうになるのは正しく此の時期である。子供は他の人々が如何なる動作をするか見ようと待ち構へて居る。何となれば、子供自身所幸と不幸とは全く此の如何にすべきかといふことに懸つて居るからである。故に、子供の心はあらゆる動作の暗示を受容れるやうに開かれてある。子供の注意は極めて些細なる事にも及ぶ。而してそれから暗示を受けてはこれを自分の行として模倣的に發表する。それは反應運動の自然の法則と

してかくあらねばならぬからである。子供の生後第二年及びそれから暫くの間は、子供がその周圍にある人々に對する感じは正しく此の時期にあるのである。子供が自分に關係した動作に出會ふ度に、また自分に對して色々話されることを聞く毎に、「何故？」といふ質問を連發して止まないのは、正しく、子供が生きた人間といふものに就いて理解に迷つて居る證據である。無論子供は何故といふわけを了解することは出来ない。そこで子供にとつてはたゞ單に「お母さんが宜しいと仰言る」「お母さんがいけないと仰言る」といふだけのことが理由になるばかりで、子供自身に豫めこれを測り知ることは出来ないのである。

却説、此の人格の模倣の萌芽期は前章に論じた時期よりも一段を進んだものであるけれども、なほ、此の時期に於ける子供は受動的であるといふことは、右のホルドウィン氏の述べて居ることを考へてもわかるであらう。そこでホルドウィン氏

は此の時期に所働期といふやうな名をつけて居る。子供は豫知し難い生きた人間の動作によつて、常に力強い暗示を受け、此の暗示によつて行動するものであるから、此の時期にあつては模倣的動作は子供の動作の各方面にわたつて著しく現れて来る。思へば、兒童發達の全時期に於て、模倣といふことが最も勢力を有してあらゆる動作を見るに随つて何でも眞似をするといふ時期は、此の時期ではあるまいか。かくして子供は模倣を繰り返して居る間に、次第次第に生きた人間といふものに就て明瞭なるを觀念を持つやうになつて来る。即ち、子供自身の外部に存する色々の生きた人間は畢竟活動するものであるといふ考が、次第に子供の心の中に起つて來て、それから日數がたつにつれて、子供は自分も亦一人の生きた人間であつて色々活動をするはたらき者であることを自然に知るやうになる。斯様にして、生きた人間といふものは活動する者であるといふことがわかるやうに

なれば、其の次には色々の人に就いて、その活動の有様が種々様々に異つて居るのを知るやうになる。尤も活動の有様といつても、こゝでは所謂分業的の仕事を目指すのではなくて、同じ仕事をするにして性格によつてその仕事をする有様が色々に異なるのを指して言ふのである。そこで、子供は色々の人の性格に接する間に、人間の性格の識別といふことも臆氣ながらわかるやうになる。此の時期をポルドウイン氏は自證期といふやうな名をつけて居る。氏によれば此の時期は兒童發達の第二年の終及びその以後である。而して子供が自己の意志を以て他を律しやうとする、即ち、ポルトウイン氏の所謂發働期は、子供が自分も亦一の動作者であるといふ事を知つた後に始るものであつて既に此の時期に入れば子供の模倣は稍々個人的特色を帶ぶるやうになる。此事に就いては後に委しく述ぶるつもりである。

以上述べた所を換言すれば、所働期から自證期

自證期から發働期と、次第に子供の精神が發達して來る上に就いてこれを見れば、子供に於ける人格の模倣の萌芽期は、所働期から自證期にかけた頃であるとして宜しからうと思ふ。所働期は全く外部に對する受働的順應の時期である。外部から刺激が來るに従つて、その時々調整を行つてこれに順應して行くのであつて、その間には何等豫期の心的情態はないのである。故に此の時期に於ては、經驗はその度毎に單に受働的に受取らるゝ然るに次第に經驗が積まれるれば初期の自我觀念を生ずる。其の頃になれば、此の初期の自我觀念と相伴つて豫期的注意が現れるやうになる。即ち、豫め經驗を心の中に想像して待ち構へるといふやうな心の情態が發現して來る。而して、此の豫期的注意は、所謂類化作用を行ふ致知覺又は統覺といふものゝ芽蒔とも稱すべきものである。此に於てか子供の精神の發達は自證期に入ることとなるのである。此の豫期的注意のはじめて著しく發現し

て來る時が、即ち人格の模倣の萌芽期となるのである。

却説、既に幾度も述べたことであるが、人が人を模倣するといふことは、その有機的組織の同一といふことを前提の事實として有するのであるから、最も自然に適つた事と言はなければならぬ。最も自然に適つた事であるから、兒童發達の初期にも人を模倣することの最も多いのは自然の數である。固より一歳乃至三歳の子供は、或は犬を模倣し猫を模倣して、匍匐しながら猫の食器から食物を食べたり、或は馬を模倣して飛びまはつて、厩に入れられて喜んだりすることは少くないけれども、これを人を模倣する事の數に比較すれば、極めて少ないのである。「ラッセル氏序、兒童觀察錄第一集、模倣及びこれに關連せる活動」といふ書のはじめに記述せられた一歳から三歳に至る子供の模倣百九十一の場合の中で、子供が馬犬猫などの動作を模倣して居る場合は、その内八つに過

ぎない。その餘の百八十三の場合の中の大部分は、子供が大人の動作を模倣して居るものである。これによつて考へても子供が人間以外のものを模倣することは人を模倣することに比較して極めて少いといふことは察せらるゝ。然るに、教育といふことを考へて見れば其の作用はたとひ多端にわたつて人以外の自然物などがその間に重要なはたらきをすることがあつても、畢竟は人が主であつて、一人前の人間が子供を導き教へて一人前の人とするやうになるまでの仕事を指すに外ならぬ。故に、子供が人間を模倣することが最も多いといふ事實は、即ち、教育上に於て模倣が重要な手段となることを意味するのである。人格の模倣が教育上大切であるといふ第一義は此に存する。然らば、一歳から三歳までの幼少なる子供が人を模倣する事は教育上如何なる意味を有するものであらうか。今少しく立ち入つて述ぶる必要がある。

抑々子供が生れてから後、次第に發育して感覺が發達し活動力が増進して來るに従つて、はじめは漠然として居た經驗が次第に明瞭になつて分化して來るものである。經驗の分化といふことは、即ち、經驗が複雑になつて來ることを意味するのであつて、經驗の複雑になると同時に、外界に對する順應といふことは愈々其の必要の度を増して來るのである。而して、新なる外界に對する順應は新なる經驗となり、新なる經驗は常に子供の心意の發達を促すものである。子供が新なる外界に對する順應の法は固より多くある。併しながら、子供が外界の生きた人間に對する場合に於ては、模倣といふことは比較的容易であつて且つ有効な順應の手段である。然らば此の模倣といふ手段で子供が生きた人に對して順應するといふことは如何なる意味が含まれて居るだらうか。カークバトリック氏は、自發的模倣といふ名の下に、すべて自然界のものたると人事界のものたるとを問は

す、子供の耳目に觸れて自然に模倣運動を起す事實を述べて居るが、氏がその自然的模倣の價值に就いて述べて居る所を見れば次の通りである。自發的模倣の價值は、知識とか動作する力とかいふものになつて、澤山の材料が貯へて置かるゝといふ事に存する。此の貯へられた材料は、使用されたり、分析されたり、結合されたりして、將來の活動に於て一の目的のために用ひらるゝ。斯様にして得られた知識は、其の範圍極めて廣く、且つ、最も基礎の固いものである。何となれば、それは客觀的であると共に主觀的であるからである。子供は、動作や音聲を耳目に觸れて學ぶばかりではない、動作を行つて自ら感じ、音聲を發して自ら感じて學ぶのであるから、子供はその動作や音聲を認識するばかりではないこれを支配するのである。斯様に自發的模倣によつて子供は世界を自己のものとして爲してその支配權を握るのである。

右カークバトリック氏が自發的模倣に就いて述

べて居ることは、直に移して、余の所謂人格の模倣の萌芽期の意義を論ずる資料となることが出来る。子供が生きた人間を模倣するに當つては、甚だ多方面にわたるものである。苟も子供の能力及ぶ範圍に於ては、人の爲す事のすべての方面にわたつて模倣を行ふ。故に人と人との關係上起り得べき日常の動作は、悉く子供から模倣せられぬものはないと言つても宜しい。此に於て、子供が人の動作を模倣するといふ事の意義は、生きた人と人との關係に於ける種々様々の動作に就いての經驗を蓄積して、將來社會的關係の中に立つ人としての準備の第一歩に入るといふ事に存する。即ち社會的關係といふうちでも、特に、日常の努力實踐躬行といふ方面の經驗の蓄積の基礎として意義を有する。固より人の動作を模倣しても、其の結果としては子供は知識を獲得する。しかし、其の知識は知識として獲得せられた知識ではなくて、實踐的の動作の結果として産出せられた知識



である。故に、斯様にして得られた知識は、カークパトリック氏が述べて居る通り「客観的であると共に主観的である。」單に耳目に觸れたといふやうな力のない知識ではなくて、實際に子供を動かす力のある知識である。子供は單に耳目を通じて人の動作を知るに止らず、身自ら模倣してこれを實行するのであるから、自分の心の内部から切實に動作を感じるのである。故に子供は動作を認識するに止らず動作を支配する。元來ひろく之を觀すれば、子供が眼前に展開する世界の萬象に對して單に耳目によつてこれを知るに止らず、身自ら事物の間に入つて、手足の筋肉や全身の力を使つて或は事物の位置を變じ、或はこれを破壊し、或は新しく組み立てるやうな事を實行するのは、極めて意味の深いことであつて、子供はこれによつて世界の萬物と親しい心の關係を結ぶものである。斯かることを實行した子供の心には、此の世界といふものは自分とかけ離れた乾燥無味なる外

界ではなくて、常に自分と密接なる關係を持つて居る自分の領域である。自分の心の領域である。カークパトリック氏が自發的模倣によつて子供は世界を自家のものとすると言つて居るのも、畢竟は斯様のことを意味するものと思ふ。これによつて考ふれば、子供はまた、生きた人間を模倣することによつて、人間の社會的關係を自家のものとするものではあるまいか。子供が若し耳目を通じて人と人との關係を知るに止つて、絶えてこれを實行することがなかつたならば、社會的關係や人の行爲の問題などが、その子供の成長の後に眞に切實にこれを動かすことが出来るであらうか。斯様な子供は、恐くは、その成人の後には精神上的不具者となり終るであらう。常に自己の薄弱な知識薄弱な空想などの領域に立てこもつて、血あり、涙あり、奮闘あり、努力ある現實の人生からは見棄てられた人として、其の一生を終るならば、其の人の受けた教育の意義は果して何處に存するで

あらう。併しながら吾人は徒らに想像を逞うして悲しむを要せぬ。吾人には蹈むべき道は既に示されてあるではないか。子供は動作をせずに静止して居るものではない。子供は生の初に於て既に吾人を模倣して動作するではないか。子供は人格の模倣の萌芽期に於て、人の動作を模倣する事によつて、人と人との關係に關する實踐的知識を得るものである。子供はこれによつて、次第に、人の社會的關係、即ち、人生その物を自家の知識の領域にとり入れて、以て人と人との社會的關係を支

### 『ポウル・ドンビー』(ヂッケンス)

(一)

|| 英文學に現はれたる子供 (十九) ||

岡田みつ

これから少しヂッケンス(Dickens)の小説中の子供を御紹介します。此號のは「ドンビー・エンド・サン」といふ小説の中にあるポウルと申す男の子の事です所々を抜いて掲載致します。ポウルは満五歳に近くなつた。可愛らしい子で

配する勇ましい首途の第一歩に踏み入るのである。日と共に月と共に子供は進むばかりである。其の進路に光を示して、子供の模範となり、子供の指針となるべき人は誰であらうか。嗚呼我が敬する天下の父母たる人よ、兄弟たる人よ、教育者として深く心に思はねばならぬのは實に此處に外ならぬのである。(此の一篇は近日出版せらるべき著者の『實踐教育上より見たる兒童の模倣』と題する著述中の一節にして、特に著者に乞うて茲に掲載したり。編者識)

はあるが顔に何だか勢せいのない思ひ沈んでゐるやうな所があつて、乳母を少なからず案じさせた。ポウルは時には子供らしく戯あそげまはる事もあつて、

むつちりな性質といふ譯でもないが、折々小さな  
脇掛椅子に坐つて、いやに考へ込んで終ふ事があ  
つた。子供部屋でもよくこんな気分になつて、姉  
のフロレンスと遊んでゐてさへ、あゝ疲れた！  
と云つて、急に黙り込んでしまつたりした。併し  
一番よく斯様な気分になるのは、夕飯の後で、父  
の部屋へ小さい椅子が運ばれ、自分が父と一所に  
爐火の前に坐る時であつた。其時の二人は、余程  
不思議な對照をしてゐた。父のドンビー君が、身  
體をしゃんとして威嚴めしく、火をちつと眺めて  
居ると、其雛形といふ格好で、ポウルが老人見た  
やうな容貌をして、紅い光りに眸を凝らして思ひ  
入つて居た。ドンビー君が、心中に商業上の複雑  
な計畫やら抱負やらを描いてゐると、其の雛形は  
途方もない空想や捕へどころのない思案に耽つて  
居た。ドンビー君がしやつちこ張つて横柄な態度  
でゐると、その雛形は、これも又遺傳と模倣とで  
父そのまゝの姿勢であつた。二人は相似る事甚しく

しかも相異なる事も亦非常であつた。

或時、かやうの場合に、二人とも長い間無言で  
ちつとして居た事があつて、ドンビー君は、ポウ  
ルの眼に炎の光が寶玉のやうに輝いて居るのを眺  
めて、ポウルは未だ目を覺してゐるなと思つてゐ  
ると、ポウルが急に

「御父さん御金ツて何？」と尋ね出した。

ドンビー君は、自分の思つて居た事と直接に關係  
のある問が、かくも突然に出たので、面喰らつて

「御金ツて何だといふのかい。御金？」と言つた。

「えゝ。御金ツて何なの？」とポウルは言ひなが  
ら、椅子の小さな脇掛に手を載せて、年寄見たや  
うな顔を父に向けた。ドンビー君は困つた。賣買  
の媒介物、通貨、下落、金銀塊、相場、歩合等の  
語を使つての説明をしたかつたのだが、その小さ  
い椅子を見下ろし、その低さをつくづく見て、

「金だの銀だの銅だのさ。そら、ギニー金貨、シ  
リング銀貨、半ペンスの銅貨ね、御前知つて居る

「だろう」と答へた。

「えい。其は知つて居るの。その事を言ふのでは  
ない。御金ツて一體何になるのツていふの。」

「やれ〜此子の顔のませて年の寄つてゐる事!

「御金ツて一體何になる!。」といつてひた呆れに  
呆れたドンビー君は、こんな質問を出す生意氣の  
幼兒を熟と見やうと少し椅子を反らせた。

「あのね、御父さん。御金は何の役に立つの、」と  
ポウルは言つて、腕組をして、(組む程の長さはな  
い腕だが)火を見ては父を見、父を見ては火を見  
て居た。

ドンビー君は椅子を以前の位置に戻して、子供  
の頭を撫でた。

「今に解るよ。御金で何でも出来るのだ」といつ  
てポウルの小さい手を取つて、自分の手に軽く打  
ち當てた。ポウルは急いで父の手を振り放して、  
小さい椅子の舷で徐々摩擦ツて居た。——自分の智  
恵が掌にあるから、今それを研いでゐるのだとい

ふ風に。而して火が自分の指導者で忠告者でも  
あるかのやうに、再び火を眺めて、

「何でもなるの、御父さん。」と尋ねた。

「あゝ、何でも——大抵の事は。」

「何でもツていふ事はどんな事でも皆ツて言ふ事  
ね。」とポウルが念を押した。

「そうさ。」

「何故御金で母さんを助ける事が出来なかつた  
の。御金は無情もの?」と子供は聞き返した。

「無情だ! いゝえ。御金はよいものだもの、む

ごい譯はない。」とドンビー君は憤つたらしく襟  
飾をいちツて直した。

「でも御金がいゝもので、何でも出来るなら」と  
ポウルは、火を眺め入つて熟々と「どうしてそれ  
で母さんが助からなかつたのだらう」といつた  
が、子供心の覺早く、父が氣を悪くしたなと知つ  
たから、此度は父に尋ねたのではなかつた。但し  
其を口に出したのは、前々から考へて居て、思ひ

惱んで居る問題だからで、ポウルは頬杖をついて火に解決を求めやうと眺め入つてゐた。

ドンビー君は、驚きからやつと我に歸つて、ポウルに、御金は尊いもので、假にも悪く言ふべきものでないが、死期の來てゐる人を救ふ事は出来ないといふ事、人はどんなに金持で而して都會に住んで居ても、皆死ぬものだといふ事、又御金があると、人に敬はれ、恐れられ、ちやはやされ、着き纏はれ、偉らく貴く見えるといふ事、而して御金の力で死を長く近よらせぬ事も出来る、例へばポウルの母の病氣の時に、ビルキン先生の診察を頼む事が出来たやうなもので、其力の及ぶ範圍では、金は萬能だといふ事を説いて聞かせた。一心に聞いて居たポウルは、父の話の大意を了解したらしかつたが、暫時黙つてゐた後に、

「でも僕を丈夫に達者にしてくれませんか。」といつて、小さな手を揉み合せて。

「御まへ、丈夫だろう。何處も悪くはあるまい。

え？」とドンビー君が聞き返した。嗚呼、父へ向けたその顔のませてゐる事——半ば愁を含んだその伶俐い表情は！

「御前、子供相當に達者なのだらう。え？」

「姉さんは僕よりそれや年は上だけれど、僕はとうも姉さん見たやうに丈夫ぢやないの。姉さんが僕位の時には、きつと疲れないで、もつと長く遊んだでせう。僕はどうかすると大へん疲れ、るんだもの。」と幼いポウルは手をかざして火格子の間を眺めて、「身體の骨がもう痛くて——乳母が骨だつて言ひましたよ——どうしやうと思ふ位。」

「でも、それは夜の事だろう。」とドンビー君は言つて、椅子を擦り寄せ子供の背に軽く手を載せて「小さい人は、夜は疲れる方が宜いのだ。よく寝られるから。」

「いゝえ。夜ではないの。晝間なの。姉さんの膝に抱かつて、姉さんに唱つてもらふの。夜は僕

奇——妙——な夢を見るんです。」とポウルはいつた。

ドンビー君は、驚いて、心が不安になつて、途方に暮れて、話の続けやうがなく、唯愛兒に手を掛けたまゝ、火の光を便りにその顔を見守るのみであつた。それから、兩手で、ポウルの思ひ沈んでゐる顔を、自分の方へ向けても見たが、父が手を放すとすぐに、ポウルは火の方を向いて、やつぱりチラ／＼揺ぐ炎を熟視して居た。

乳母が迎へに來た。

「姉さんに來てもらふの。」とポウルは言つて。

「坊ツちやま。乳母と御一所にいらつしやいませんか。」と

乳母のウイツカムが情を籠めていふと、

「いや！」と一家の主人といふ身構へでポウルは椅子に落付いてしまつた。乳母は「まあ罪もない事！」といつて引下つて、代りに姉のフロレンスが入つて來た。すると、ポウルは身輕に、活

潑に坐を立つて「御休みなさい」と言ふ時今迄と違つて、余程元氣のよい若やいだ幼ない顔を見せたので、父は大きに安心すると共に、その變りを少なからず奇異に感じた。子供二人が出ていつた後に、微かに唱ふ聲が聞こえるので、ドンビー君はポウルが姉さんに唱へてもらふといつたのを思ひ出して、戸を開けて耳を澄して二人の後を見送つた。フロレンスがポウルを抱いて、大きな幅の廣い、人氣のない階段を上つて行く處であつた。弟の頭は、姉の肩に倚れ、その片腕は力なく姉の首の邊に下つてゐた。二人は大儀さうに登つていつた——姉は歌ひ続け、弟は時々弱い聲で連れ歌ひをして——。ドンビー君は二人が階段を登りきつて——途中で一休みして——見えなくなるまで見送つた。それからあとも、月の鈍い光が明窓から陰氣に射し込むまで、我を忘れて上を眺めて立つて居た。

翌日、ドンビー君は晝食のあとで、家内のもの

に對つて、ポウルはどうかしては居ないか。醫師が何といつて居るか尋ねた。

「どうも、あの子は思ふやうに丈夫でないが」と言つた。ドンビー君の妹は答へて。

「いつもの通り兄さんのお目の着けどころの偉い事。あの子はどうも申分ないといふ程の身體でありません。それといふのが、智慧の方が進み過ぎてゐるので、あの子の話す事柄と申したら實際とは思へません。ネー昨日も御葬式の話をして——」

ドンビー君は横合から疥癩聲で、

「子供部屋で、子供に不相當な事を教へるのだらう。昨夜も骨がどうかしたつてあの子はいつてゐた。あれの骨がどうしたのです。生きた骸骨ではあるまいし。それにまた葬式だなんて誰が子供に葬式の話なんかするんです。葬式屋だの穴掘ではあるまし。」

「勿論ですよ。」

「では誰がそんな事をいつて聞かせるのです。昨夜もほんとに呆れてしまつた。誰がそんな事をいつて聞かせるのだ」とドンビー君は息巻いた。

妹は和めるやうに、ポウルは此前の病氣以來健康が十分でなくて、時に脚に力がないやうな風が見えても、子供に通例の事であるから案じるに及ばないと言つて、

「ビルキン先生も、此間から續いて診察して下さいますが、格別言ひ立てる程の事でもないと言つてでした。海の空氣がよかろうと、先刻御勧めになりましたが私も至極結構だと思ひました。」

「海の空氣？」とドンビー君は、妹を見た。

「え、吃驚りなざる事はない。私の子供も、ポウル位の時分はやはり醫者にさういはれましたし、私も幾度も海邊へやられた事があります兄さんの仰る通り、子供部屋で聞かせてよくな

い話がうつかり出るのでもありませんが、あんな  
な伶俐な子ですから仕様がありません。普通の  
子だともないんですが……兎に角少し此家  
を離れて、ブライトンあたりの海邊で、ビプチ  
ンさん見たやうな偉い人に預けたらば……。」

「ビプチンといふのは一體どういふ人です。」

ビプチン夫人といふのは、以前はよい身分の人  
であつたが、夫がバルー銀山で失敗した後、夫人  
が熱心に幼児を研究して上手な育て方を考へ出  
たとかで一部の人の仲には評判のある人で、今日  
の名士貴婦人にもビ夫人の世話に大分なつた人  
があるとの説明を聞かされて、ドンビー君は、

「ではその人が學校でも立て、居るのかい。」

「さあ學校といつてよいかどうか分りませんが  
まあ極上等な幼児保育所とでもいふのでせう。」

「では明日よく聞き訂して、もしいよ／＼ポウル  
を其處へやるとしたら、誰を附けてやつたもの

だらう。」

「兄さん、何處へやるとしても、あの子はフロ  
ーレンスと一所でなくてはいけません。それは  
／＼懐ききつて居るのですから……未だ幼少  
から、一時の氣まぐれでせうが……。」

ドンビー君は顔を背向けてしまつた。而して立  
つて本箱の方へそろ／＼行つて、一冊本を持ち出  
した。

「その他には？」とドンビー君はページを繰りな  
がら、顔を上げないで尋ねた。

「乳母は是非行かなくつては。其だけで澤山で  
せう。ビプチンさんの處ですからさう大勢厄介  
を掛けるのも……而して兄さんが、少なくとも一  
週に一度御自分でいらしつたら。」

「勿論」といつて、あと一時間もドンビー君は  
一字も讀まずに同じ頁を見てゐた。

(つゞく)



# 保育入門 (六)

倉橋惣三

## 六、幼稚園教育と設備 (上)

すべての教育を通じて、設備は重大なる關係を有するものであるが、特殊なる研究上或は教授上の装置を別にして、一般教育的效果の上からいへば、被教育者の年齢と反比例的に、其の關係が大且つ密になるのである。蓋し、兒童は其の幼少なれば幼少なる程、設備の支配から獨立することが難いからである。殊に幼稚園教育に於ては、其の四つの原則よりして、設備の力に俟つこと最も多からざるを得ないことになるのである。勿論、教育の中心は人にあつて、幼稚園教育に於ても變りはない。しかも此の教育は、前に述べた通り(第六『幼稚園教育の原則』)幼兒の自發的生活及相互的生活を最も尊重するの結果、保姆は幼兒達に對する自己の支配を餘りに直接的に影響せしむるこ

とを差控へなければならぬ點がある。是に於て設備を通じて、間接的に幼兒の生活を支配してゆくに必要が起るのである。即ち幼稚園教育に於て設備の力が大であるといふのは、保姆を離れた別箇の機關としていふのではなく、保姆の力の最適切なる表點の一つとしていふのである。

然らば幼稚園の設備は如何なる性質、如何なる條件のものなるべきやといふに、此の教育の原則と顧慮とに基くべきものたるは言を俟たない。設備を完全にするといへば、其の弊往々にして贅澤なる造築装具を誇るようなことになるが、それは甚しき誤解である。殊に徒に非教育的なる設備に凝つて、遂に此の教育の原則と顧慮とを無視するようなことがあつたならば、其の害は、設備に就

て無頓着なるの害よりも却つて大なのである。即ち幼稚園の設備は、一つに此の教育の原則と顧慮よりして立案もし評價すべきもので、何等他の見地よりすべきものではない。

## 一

幼稚園の設備の中、四つの原則、三つの顧慮に對して、最も充分なる條件を完備し得るものは、廣き遊園である。而かも往々にして此の遊園が幼兒教育の主要なる設備たる性能を存分に發揮し得ないの、次の如き二つの誤解によるものである。

その誤解の一つは、他の學校教育に於ける運動場の目的と、幼稚園の遊園の目的との混同である。即ち學校教育に於ては、其の教育の中心は課業にあつて、課業の場所は教室である。従つて運動場は、各課業間の休憩時間に、神氣を恢復する休養の場所か、乃至は體操といふ特別な課業の爲に使用せらるゝ場所である。然るに幼稚園に於ては或る特別な目的の爲め設備でなくして、全部の

教育を行ひ得べき場所である。次に幼稚園の遊園と所謂庭園との混同である。即ち庭園は建築上純粹なる裝飾の目的のものであつて、謂はゞ見るに楽しむものである。その盆池水石の配置、樹容草態、或は座敷に座して眺むべく、或は椽に立つて賞すべく、或はたかゞ出でて輕歩を花間の小路に運ぶ位のことである。即ちいづれにしても觀賞の目的が主となつて居る。而して幼稚園の遊園は之れとは全然趣を異にした、幼兒の全生活のための場所である。

學校の運動場と雖も、座敷の庭園と雖も、勿論それぐの必要を具ふるものである。しかも多少從屬的性質を帯びて居る。教室に附屬するもの、座敷に附屬するものとなつて居る。之れに反して幼稚園の遊園は、それ自らが幼兒教育の主なる設備である。之れを保育室に附屬するものと考へることは根本的の誤解の基である。詳しくいへば、保育室内の課業に疲れたものを遊園の逍遙散策に

よつて休養せしむるのではない。或は又、保育室の窓から見た風致の爲の造庭でも勿論ない。従つて幼稚園の設計よりいへば第一に注意せられ考慮せらるべく、日々の使用よりいへば、能ふ限りの利用を盡さるべき場所である。

遊園を教育の主要なる設備とすれば、彼の小學校の運動場に屢々見る如き、たゞ一劃の平板なる地といふのでは足りない。若し理想をいふならば次の如き諸點を具備し度い。

(イ) 成るべく廣いがよいこととは言ふまでもないが、出来ることならば諸種の地形の變化を含むものであり度い。殊に斜面は最も必要である。

(ロ) 全體の調子が成るべく自然的であり度い換言すれば、さもく人工的に造つたものといふ感じを少くし度い。

(ハ) 清楚なる趣味を具ふるものであり度い。但し其の趣味たるや所謂成人の風流をいふのではない。どこ迄も幼兒本位のものでなければならな

い。

此の他、遊園内に設くべき諸種の小設備の必要は勿論であるが、殊に必要なは、遊園に於て所謂戶外遊戯のみならず諸種の保育をなし得る設備である。幼兒の一群を集めてお喋りをするとか、諸種の室内式玩具を興へて遊ばせるとか、鉛筆を持ち出して繪をかくとか、或は粘土細工をするとか、斯ういふことは必ずしも室内でなくとも容易に出来ることである。たゞ日光の直射を防ぐべき軽い屋根と、テーブルと、椅子とがあればよいのである。風涼しい綠蔭でもあれば尙更結構であるが、そうでなくとも、簡易なる天幕、乃至野趣外き葎簾張りでもいゝのである。斯くして雨天にあらざる限り、出来るだけ遊園を主に用ゆることは、此教育の必要なる顧慮中、殊に身體及び神經の養護の上にも最も適切なることである。のみならず保育室の不足より生ずる種々の困難をも補ひ救ふことが出来るのである。

遊園は最もよき保育場であるが、室内生活の訓練も亦重要なことであつて、そのために室内保育の場所が必要になる。

室内保育の場所は通常『大きい室』と『小さい室』とに分たれる。『小さい室』は即ち組の室であつて、幼児にとつては『自分等の室』となるべきものである。『大きい室』は一つには屋根のある遊園の代用をなすべきものであつて、孰れの組も使用（共同的にも個々のにも）し得る處である。

(い) 『小さい室』即ち組の室は其の幼稚園の定員幼児數によつて數を異にする譯であるが、一室内の幼児數は、其の年齢の幼児が相互關係を持して共同生活をなし得るの限度を超えることは望ましくない。換言すれば、『小さい室』の主なる目的は幼児達に統一ある相互的生活を訓練するにあつて、其の統一が害せられ、或は、無意味なる多數の集團になり了ることは最も避くべきことである。

勿論熟練なる保姆は、其の支配力を以て可なり多數の幼児を巧に統禦したるものである。併しながら、其の技倆を標準として『小さい室』の人員を定むることは出来ない。若しさういふことが極端に行はるゝならば、一人の羊飼に統一引率せられながら、各自の間には何の相互的關係もない羊の群と同じことになる。それでは此の『小さい室』の教育の主なる意味は行はれないのである。

『小さい室』に於て最も肝要なる設備上の注意は幼児の座席である。而して、其の注意は、幼児の自發生活及び相互生活を少したりとも妨ぐることなく、之れを充分誘導促進し得ることである。すなはち學校の教室に於ける座席の配置とは、全然本來の要求を異にするのみならず、彼の如く、各自にとりては**固定的**にして、**全體**としては**教師中心**的なる配置は『小さき室』の精神を無視せるものである。但し必ずしも一定の型式はないのであつて、たゞ幼児達が成るべく自發的になり、且つ

相互的になる様にと工夫せらるればよいのである。

(ろ) 『大きい室』に於ては、一つの組が其處に來て遊戯をすることもある。唱歌をうたふこともある。或は二つの組が一緒になり、三つの組が合し、『小さい室』よりは大きい共同の訓練を興へられる。或は又全園の幼兒が一堂に會することによつて、大きい全體といふ感じを銘々の心に起させることもある。従つて茲に於ては純粹の自發的との相互的とかいふことよりも、群集の力を以てする或る教育が行はれるのである。其の爲に其の設備は『小さい室』とは別になる。たゞに『小さい室』の擴大ではないのである。然しこれは、『大きい室』が特に或る目的に用ゐられた場合であつて平常自由遊戯の場所として解放せらるゝ場合は、遊園と同様なる目的が室内で行はれるといふだけで、其の條件は矢張り自發と相互とを完からしむるの他にない。

## 幼稚園教育と美的陶冶

倉 橋 生

今日我國の幼稚園教育を通覽して、一般に最も發達して居ないと思ふ點は、美的陶冶の研究である。但し之れは幼稚園に限つたことではなく、すべての教育に通じて居る缺陷ではあるが、幼稚園教育に於ても、其の足らざること實に甚しいのである。即ち幼稚園教育のすべての方面が、常に訓育の上からと衛生の上からとのみ注意せられて、幼兒の美的陶冶の上に及ばず影響といふ點からは、甚だ研究が足りない。勿論保姆の趣味を標準として、自然的に撰擇はせられて居るのであるが、其の美の標準の正しい知識の研究に就て、及び各自の美の趣味の向上に就て、未だ頗る不充分と言はざるを得ない。その爲に、保育室に随分不調和な、低い趣味の裝飾が平氣であつたり、幼兒の色彩の取扱などに一寸美の知識があれば容易に

指導し得べきことが其まゝに捨て、あつたり、そ  
ういふことは珍らしくないと言つてもよい位であ  
る。のみならず、幼児教育上餘り重大でもないこ  
との様に考へられたり言はれたりして居ることも  
往々あるのである。

しかも、斯ういふ無頓着な教育を受けて居る間  
に、幼兒の美に對する發達は、折角の大切な時期  
を無爲に過されたり、或は、時によつては悪化さ  
れる様のこともあり得るのである。之れは甚だ遺  
憾のこと、言はなければならぬ。それに反して、  
平生接する處の保姆が、高く豊かなる美の趣味を  
有して居る人であつたならば、それこそ一言一句  
一舉手一投足の間に、おのづからなる美の感化を  
與へられるのである。如何に幸福なることと言ふ  
べきであらうか。私は既に、そういふ實例を屢々  
見ることがあるのである。

美とか趣味とかいへば、直に贅澤なること餘計  
のことに様に思ふ人がある。しかし、實際は却つ

て非常な經濟である。少くも經濟的に其の目的を  
充たし得るものである。同じ額の繪を買ひにゆく  
に、一人は高い價を拂うて、美的でないものを買  
つて來る。一人は比較的廉なる價で、却つて美的  
價値の大いなるものを買つて來る。いづれが眞の  
經濟であらうか。又訓育的價値が同一で衛生的價  
値が同一で、而して美の趣味の勝つて居るものが  
美の趣味の劣つて居るものに對して、何の餘計の  
ことであらうか。

私は、すべての教育者殊に幼児教育者に、美の  
趣味に關する修養の必要なることを平生主張して  
居るものである。昨年の本誌に附録として美學講  
話を連載したのも此の微意に出づるものである。  
しかも、最も欽けて居るものは、此の點の修養機  
關である。處が、幸にして今年のフレイベル會夏  
期講習會の課目に、此の點に關する最も適切なる  
題目の加へられたことは、實に愉快とするのであ  
る。即ち常にあらゆる方面に完全なる保育をなさ

んとして最も熱心なる諸君が、新たに（或は既に多く注意研究せられつゝある上に）此の方面に向つて、二層研究を進めらるゝに最も適當なる機会なりと信するのである。

元來普通教育に於ても美的陶冶の價值の高められ、要求せられつゝあるのが現代の教育の主なる思潮の一つである。我が幼稚園教育も亦、此の新らしい教育の進歩に遅れてはならない。

### ○本會の講習會に就て

|| 家庭の教育の爲にも ||

教育に關する講習會といへば、所謂狭義の教育に従事せらるる、學校の教師諸君なり、幼稚園の保姆諸君なりの爲に限られて居て、家庭の母として、其の愛子の教育に心を籠め力を盡さるゝ方々のために催さるゝといふことは殆んどありません。之れは私共の常に遺憾とする處でありまして、料理とか裁縫とかの講習と同じく、家庭教育に關する講習會も是非必要のことと思つて居ます。而して、其の教育は學齡兒童又は青年の家庭教育に關することと大切ではありませんが、殊に幼児教育に關することは最も必要であると思ひます。本會の如きも出来ることならば、母のため、

母たらんとする人のために幼児教育の講習會を催し度いとは常に考へて居りますが、特にさういふ會を開くといふ運びには未だ至りません。

そこで、今年の如き夏期講習會を家庭の方々も充分利用なされ、多數御來會下さつたら此の上ない幸であると思ふのであります。著書雜誌等によつては始終研究を怠つて居られない方々も、講義は一層徹底した理解を得らるゝことと思ひますし、平生多く讀書の機會のない方にも、耳からの平易なる理解を得らるゝことと信じます。殊に今回の如き手技の實習によつて、簡單なる玩具の製造法を覺えらるゝのは一段と利益の多いこととせう。それに休暇中十日間許り、久し振りの學生時代に歸らるゝのも興味多いことではありませんか。本會はさういふ方々の爲に出来るだけの御便宜を辭せないのであります。

○本會夏期講習會

本會主催幼児教育夏期講習會は七月二十七日より開催のことに前號に豫告しましたが、都合により期日變更、八月一日より十日迄十日間、東京女子高等師範學校内に開催することに決定いたしました。課目は文學士菅原教造氏の『幼児教育に於ける美的陶冶の基礎』東京女子師範學校助教藤藤五代篤氏の『幼児教育に必要な手技實習』及び、本會幹事倉橋惣三氏の『幼児教育に於ける訓育』でありまして、毎日午前八時より正午迄開會の筈であります。詳細は本誌廣告に就て、御承知相成り度く、講義實習共に、幼稚園保姆諸君のためには最適切なる専門的講習會であると共に、小學校初年級擔任教師諸君、及び、幼児の教育に熱心なる家庭の方々にとりて最も有益なることと信ずるのであります。多數諸君の御來會を得て、一昨年の盛會にも勝ざる盛會を見んことを切望します。(成るべく二三日前迄に本會事務所へ豫め御申込を願ひ度いのですが、若し申込期限後急に御來會の方は一日午前八時迄に東京女子高等師範學校内會場へ直接お出で下さい。但し宿泊御希望の方は是非豫め御申込を願ひます。

○大分縣 第一回打合會概況

幼稚園 幼稚園の創立古きは今を去る廿四五年新らしきは茲に二年其數十四にして未だ研究會なかりしかば、縣下高田町光圓寺成蹊幼稚園園長難波十洸師の主催により、茲に第一會打合會を開催するとはなりぬ保育界に於て、期待の事業且つ時宜に適應る會合なれば縣當局者は熱心に指導せられ各郡市長には通牒を發し各園舉つて賛同ありしかば六月十三日より二日間高田町私立成蹊幼稚園にて、開會の所參會者園長各監事一名保姆十九名加ふるに幸島下毛郡視學、竹腰女學校校長及諸學校長外十數名の出席ありて會員の近きは八里遠きは十有餘里を距る竹田幼稚園(廣瀬中

佐の故郷)の如き全員打揃ひ保姆中先輩なる大河原ため子には二名の愛兒を膝にし又大分園高橋こと子、別府園首藤しう子、青園山本と子の諸保姆は幼兒を他に依託して、出席せる熱心には之れを耳にする者感泣せざるなく其徳をたいへん展覽會場には之れを勿論佐世保市進徳、宮崎縣都城、山口縣鳳雛、福岡縣伊田の各私立園の成績品及統計表、保育案等を陳列し當日午前十時開會難波十洸師の挨拶に次で、島田郡視學座長席に着し協議五題打合事項十六題、討論二題其主要點を擧ぐれば左の如し

- (一)運動用具及思物の種類其使用上所感如何
- (二)保育上陥り易き弊如何
- (三)掛圖及參考書の適長なるもの如何
- (四)保育時間を如何なる割合に配當するや
- (五)體格検査利用法狀況如何
- (六)保姆の研究修養せる事故並に方法如何(以上打合事項)
- (イ)保姆の檢定試験を毎年施行を建議する件
- (ロ)縣下共通の保育細目編纂之件(以上協議題)
- (ハ)幼稚園を小學校に附設するの可否(討論)

今回は最初の打合會なるに關はらず各自胸襟を開き過去の經驗を語り現在の不審を尋れ且つ眞摯に研究し尙列席の郡視學諸學校長の質問並に所感等種々有益なる談話の交換あり頗る盛會にして夜間は光圓寺本堂に通俗保育講演會を開催す之れ縣下に於ける嚆矢にして淑女紳士は忽ち堂に滿ち難波園長開會の辭を述べ天川監事の紹介により左記の諸氏登壇

廣岡 ウタ子 大島 テル子 大河原タメ子 岡島 保男氏  
石川藤五郎氏 吉杉 九三氏 幸島格太郎氏  
視學一名、園長三名、保姆三名、特に保姆の講演は聽衆に歡迎せられ第二日は諸種の難點を擧げて、考究し正午成蹊園長饗應餐會に地方官吏教育家相共に列席し席上難波氏揮毫の書畫及吉野町長記念品の贈呈に次で各園長の所感あり興は愈々盡きず一同翌年の會合を約し談笑の裡に西に東に散會せり(大分縣西國東郡高田町光圓寺成蹊幼稚園保姆本本しも記す)



# フレীবエル自傳

(第七回)

(マイニンゲン大公に宛てたる書翰)

倉橋惣三譯

四十八、兄の同情

兄の返書は届きました。私は喜びに慄へながらそれを手にしました、封を切る數時間前はそれを方々持つて歩きました、それを讀む前數日の間は私はそれを肌から放しませんでした。

私の心靈の欲求を満足させることに關して私を助け得やうと兄が思ふなどとはあり得べからざることのやうに思へました、而して私はその返書の中に私の生涯の努力の挫敗を發見することを恐れしました。希望と疑惑との間に數日の間たゆたうた後私はもうそんなことをしてゐるに堪へられなくなりました、而して返書を展いてみました、それは突如として最も深き同情の言葉を以て私のため

に書き出されてありましたので私は尠からず驚かされました、讀み續けて行く内にその内容は深く私を感動させました。

それには私の親愛なる叔父の死が報じてありました。而して私と私の兄弟に遺された彼の遺産に就ても記してありました。斯く運命そのものはたとひ甚しく感激的なものであつても私に私の第一の計畫を成就させる資金を供給してくれました。

萬事はもう決してしまひました。この時から後私の内的生活には全く新しい意義と清新な品格とが加りました。而かも私はすべてこれらに就て無自覺でありました、私は花を咲かせて自分ではそれを知らないでゐる木のやうなものでありました

私の内的にして同時に外的なる天職と努力、私の眞の生の運命と私のはつきりした生の目的とはしかしながら尙分離の状態に在り鬭争の状態にありました、私はそれに就ては少しも知る所はなかつたのであります。

私の決心は建築を私の職業とすることに決めてゐました。私がすべての友から離れたのは單に未來の建築家としてのためでありました。

四十九、蝶の如くに

一八〇五年の四月の終頃、平和な心と愉快な情と熱心な意衷と力に充ちた心とを以て私は馴染みの土地を去りました。並々ならず美しい五月の最初の幾日を私は一人の友と共に休日ホヂとしてその名にふさはしく過しました（私は前にも記したやうに私の内的な個人的な生活が相變らず外的の自然と手を取合つて親しくしてゐたといふことを思ひ起しました）、この友といふのは私の親しくしてゐた人でウツケルマルクの非常に手入れの届いてゐ

る農場で活計を立てゝゐました。

人工がその地の素樸な自然の姿の美しさをば抜目のない流行の中心に開發しました。この美しいひつそりとした寂しい場所に於て私は言はゞ蝶のやうに花から花へ飛び廻つてゐたのであります、私は常に色彩と露の眞珠との自然の盛飾を熱愛しました、而して少年の喜悅を以てしつかりと自然に純りつきました。

此地で私は同情的氣分を以て眺め渡した景色といふものは増されたる光彩を以て輝くといふことを發見しました、私が當時この事を記して置いた文句によりますと「我等が自然に親近すればする程自然は美しさを以て輝き、すべて我等の愛に報いてくれる」のであります。これは私の心が私の魂を戦かした感情に表現を與へやうとした最初の試みであります。この文句は後年屢々私にその眞なることを證據立てました。

私の友は或日私にそのアルバムの中へ何か書い

てくれと私に請ひました、私は澁々彼の望に應じ

五十、兄の激勵

ました。何が借用文句を記すといふことは私の心に濟みません。何故ならばそれは私とその本の所有者との間に存する關係にそぐはぬ仕打でありますから。而かも何か獨創的な文句を考へ出すといふことは殆んど私の力には及びもつかぬことでありました。しかしながら室外で友の生活と私の生活とをあらゆる方面から比較して十分に考へた後

私は當時自分で言つたり書いたりしたことの意味を十分に解することが出来ませんでした、又私の建築學の計畫にもしつかりした考を持つことが出来なかつたのは無論であります。

私は次の句を用ゐることに決めました、

運命が速かに定住と愛妻とを郷に與へんことを！

私は尙ほ未だ自分といふものを知りませんでした、私の眞の眞の生命を知りませんでした。私の目的も亦それに達すべき私の生の道路をも知りませんでした。而してそれからすつと後私がしばらく眞の天職に従事した後、私はこのアルバムに書いた句の豫言的性質を持つてゐたことに尠からず驚かされたのであります。

我には運命が絶え間なく我をさまよはしむる間に我と内奥の我及び世界との關係を残りなく認めしむべき時を許されんことを。

後年に至つて私は人間の精神といふものはそれが始めて心の内に動いて來た時のもつと年を取つて來るとその實現に到達する所のはるけき豫言を發するといふことを屢々認めました。

斯う書いて來ると私の思想は明瞭になつて來ました、而して私は尙書き續けました。

郷は世人に、パンを與ふ。

私は近頃になつて賢い活潑な子供に就てこのことを特に注意して居ります、實際子供達の蝶のや

我が目的をして世人に自我を與ふることたらしめよ。

うな生活に於て彼等に依つて現はされる深遠な真理に私は屢々驚かさされたのであります。

私はこゝに象徴的な真理のひらめきを捉へ得たやうに思ひます、丁度人類の心靈が既にその蛹の繭から脱出し始めたやうに又は鶏卵の殻を破り出て來るやうに。

一八〇五年の五月、旅行の途次、私は長兄を訪ねました、この長兄のことに就ては今まで度々書きましたが今後もまた度々書くことゝ思ひます。而して長兄は今までの住地と違つたところに住んでゐました。彼は其處へ牧師として雇はれて行つてゐたのであります。

長兄は以前に變らず深切で情愛が深くありました、而して私を叱るところか私の新計畫に對して特別な贊意を表して會談してくれました、長兄は彼を惹き附けてゐた計畫に就て話してくれました、而してこの計畫は今も尙長兄を惹き附けてゐるのです、けれども長兄はそのことに就て語るべ

き心の強さを缺いてゐたのです。父の訓誡と權威とは若い時分の長兄を威壓して居りました、而して今では生活の定職の鎖が彼をしつかりと捉へてゐるのでその計畫を實行することは出来ません。

内心の命ずる所に従つて踏み迷ふことなかれといふのが兄が私に提供してくれた忠言でありました、而して私が去るに臨んで私のアルバムに生涯の格言として次の句を記してくれました。

人間の仕事は目的に對つて奮闘することなり  
親愛なる弟よ、堅忍不拔の精神を以て汝の職責  
を勇らしく果せ、汝の前路に當つて横はる困難  
と戦ひ汝の目的を貫徹せんことを期すべし

#### 五十一、理想と職業

斯くて私は同情と贊同によつて勇氣附けられ決意を確固にして兄の家を去つて己の道を拓いて行きました。

私の行く道筋にはワルトブルグ城がありました、ルーテルの生涯と名聲とは當時は宗教改革三

百年記念祭を行つた今日のやうには十分に評價され又あまねく理解されてゐませんでした。

私の少年時代の教育はルーテルの生涯とその奮闘とを知悉せしむるやうにはなつてゐませんでした、私はそれに關する個々の事件を本當に知らなかつたのであります。しかも私のこの眞理の擁護者を評價することを知りませんでした、それは私の學校生活の終る頃、基督教の古風な習慣に従つて特定された日曜日の午後の勤行には集りの人々にアウグスブルグ信條を聲高に讀んで聞かせることでありました。私は「ルーテルの路」を攀ちて行きながらルーテルがまだなすべき事、根絶すべき事、建設すべき事の多くを遺して行つたことを思つて深い敬虔の念に充たされました。

夏至になる少し前、私は私の友と約束して置いた通りフランクフルトに到着しました。

のどかな春に幾週間となく旅の續けてゐる間に私の思想は溫和に傾いて行き纏められるやうにな

つてゐました。

私の友も亦約に背きませんでした、乃で私達は私のために多幸なる未來を作るべく直ちに一緒に仕事に取り掛りました。

建築家の地位を求めるといふ計畫は尙しつかりと懷かれて居りました、而して事情もそれを實現するに都合よささうに見えました、けれども私の友は遂に私達が見出さずまで現れたよりもつとしまつかりした何物かを見出すまでしばらくの間教へることによつて生活費を得たらばと私に勧めました。私の望んでゐることは何でも直き協ふやうに思はれました、それなのに私の心の中には或る氣重にさせる感情が漸々と頭を擡げて來ました、私はそこで直ちに嚴しく自分に尋ね始めました。

「こはそも何故なるぞ」建築術に於て汝は人間の一生に價するだけの仕事をなし能ふか」

「汝は建築術を以て修養に資せしめ人類を向上せしむることを得べきか」

私はこの自分自身の問ひに對して満足に答へました、しかも私は今や起つて來たこの理想に適ふやうにこの職業に従事してゆくのは難事であるといふことを私自身から隠蔽することは出来ませんでした。これにも係らずして尙忠實に私の當初の計畫に止つて居りました、而して私は直ちに私の新しい職業に對つて私を適せしむるためにさる建築家の下で研究し始めました。

五十二、初めて教師に

私の思惑を貫徹させやうと斷えず配慮してくれ私の友は私を彼の友なる當時フランクフルト模範學校の校長をしてゐたグリューネル氏に紹介してくれました。この學校といふのは長い間設立されないでゐたのであります。私は茲で常に他人をよろこび迎へて之を外らさぬ隔壁のない若い人々を見出しました。而して私達の會話は直きに生活及び生活の多種な状態に就て自由に擴つてゆきました、私自身の生活及び生活の目的も亦話頭の上

つていろいろと話されました。私は當時の有の儘の私を現はして包まずに話しました、自分といふものに就て知つてゐること及び未だ知らぬことに就て話しました。

グリューネル氏は私の方に向き直つて言ひました。「あの、建築は斷念なさつたがいゝでせう、それは些とも貴君の天職ではありません、教師におなりなさい、私の學校で教師が一人要る所ですよろしいと仰言れば貴君は直ちに教師の地位に就かれます」

私の友はグリューネル氏の提議を承諾せよといふのでした、併し私は躊躇しました。搦て、加へて私の決意を急ぎ立てるやうな外的の事件が私に迫つて來ました、といふのは私は私の證明書の全部取別けそれと一緒に置いて置いたエナで貰つたものも紛失してしまつたといふ通知を受けたのであります、これらの證明書は私の仕事に強い興味を持つてゐた或る紳士の許に送られてあつたので

す。而して私は如何した事の間違ひでそれが失つてしまつたのだか分りませんでした。私はこの通知を讀んで神様が私の後にあつて橋を壊してしまつて歸路を絶たれたのであるといふ意味に取りました、私は最早思ひ煩ひませんでした、私に差し出された手を心からよろこんで捉へました。而して直ちにフランクフルト・オン・ゼ・メーン（メーン河畔のフランクフルトといふ意）の模範學校の教師となりました。

この頃の教育界の注意の焦點はペスタロツチの名でありました、ペスタロツチは又私の處世にも注目すべき人であるといふとは間もなく明かになつて來ました、何故ならばグリユーネル氏のみならず同校の教頭もペスタロツチの弟子でありました、而してグリユーネル氏はペスタロツチの教授法に就て著書をしてゐる位でした。

五十三、ペスタロツチの名

ペスタロツチの名は不思議に私を惹き附けまし

た、私の自己發達及び自己教養の間に彼の名が希望と思はれるやうになり——恐らく親密に知ることは出來まいがしかも十分明かでは何は兎もあれ激勵を與へるものと見えるやうになつてからは尙更私を惹き附けました、而して今や私が少年時代に父の家に於て尠くとも私の記憶に残つてゐるからにはさうであつたらうと思ふのですが新聞か何かで或る記事を讀んだ時のことを思ひ出しました。

私は瑞西に世の中から退いて生活してゐた四十七歳になる人——名はペスタロツチと言つて——が唯一人誰の援助も請はずに初等學を修養したといふことを讀みました、丁度その頃私は自分の發達の遅く且つ不十分なことに氣が附いて居りました、而してこの記事は私を鎮めました、私も亦努力すれば自分の教育の不足を補ふことが出來るといふ希望と確信とを以て私を充たしました。年を取るに従つて私は又力ある雄偉の人々は大抵晩學であるといふことに知つて慰められました、總じて

眞に人たる人々の實際の存在の思考が丁度膏腴な

雨と陽光の心地よい温暖との如くに常に私の精神の上に働いてゐたといふことは私の生活と私の品性の進化との下に横つてゐる土臺の一部分であると認めなければなりません。是等の人々の生活は純粹の眞理を含んで居ります、是等の生活をして來た人々が種々考へた末語録か何かの形式で現した所の主義は私には貴い穀種のやうに若しくは私の渴へてゐる精神に取つては溶解し易い鹽の結晶のやうに思はれてゐたのであります。而して私がこの事に就て記してゐる内に私は私の學校時代の終頃に於て懸命は奮闘的な人々の生活し聖典の記事によつて私の上になされた印象が特に如何に深く且つ永續的のものであつたかといふことに思ひ至らぬ譯にはゆきません、私はこゝにはこれだけを記すに止めて置きます、併し私は又後にこの事に就てもう一度後戻りをして記さなければなりません。

五十四、ペスタロッツチ訪問

扱て私が新に始めたところの新生活に筆を返しませう。ペスタロッツチに關する消息は悉くすべて力強く私を捉へました、而してこのことは文學的な新聞に掲載された彼の生活、彼の目的及び彼の奮闘に關する簡單な記述に於て殊にさうでありました。この新聞には又ペスタロッツチの有名な理想と努力——即ち何處でも關はず世界の至る所に彼の意見一つで貧民教育の學校を建てるといふことでありました、この記述殊にその最後の點は私の心には火の上に注がれた油のやうなものでありました。乃でその時から斯ることを考へ斯る事をなさんとしてゐる人のところへ行つて面會し更らにその人の生活とその仕事とを見極めやうといふ快心が起りました。

三日の後に（それは一八〇五年の八月の終頭であります）私は既にイベルドンへの途上にありました、イベルドンはペスタロッツチが近頃名を賣



出した所です。一度其處に到着しますとグリューネル氏とその同僚との紹介状を持つて行つたのでペスタロッチ及び彼の下に働いてゐる教師達から深厚な歓迎を受けました、私は他の訪問者の如く教室に案内されました、而して其處で私は自分の思ひに耽つてゐたのです。

私は教授法の理論及び實情に掛けては尙甚だ無經驗でありました、斯る事柄に關しては主として自分自身の學校時代の記憶に頼つて居りました、乃で私は教授法の細い事と斯る事柄が全體の組織に何ういふ風に關係してゐるかといふやうな嚴しい經驗には適して居りませんでした。眞實この後の問題に就ては明かに考へてみた事もありませんし又實際に施してみた事もありません、私の見た事は私に取つては直ちに向上であり又沈滞であり勇往であり又當惑でありました。

私の訪問は一週間續いただけでありましたが、私は活動しました而して出來るだけ多くを取入れや

うと試みました、特に私の從事して居る職務に於て私を助けるために全體の組織に關する私の意見及びそれが私に爲した影響を記して忠實は記録を作るべく促されたからであります。

この考へを以てすべて私の聞いた事をしつかりと記憶に留めて置かうと試みました、それにも係らず若しも私がペスタロッチの許に長く止まつてゐたならば——勿論その事を非常に希望してゐたのではあります——私は間もなく智と情とが私のような性癖を持つた人間に於ては等しく悲むやうになるであらうと感じました。

當時に於ける其地の景況は特に活潑でありました、內的に又外的にそれは生氣ある動的は忙しい存在でありました、何故ならば墺地利政府の命を受けてハルデンベルヒ公子がペスタロッチの事業を大小となく檢視に來てゐたからであります。

五十五、アンデルンデ、クラッセン

私が僅の間ペスタロッチの許に止まつて受けた

利益は次の通りであります。

第一に私は明快な確定された教授案によつて行はるゝ大なる教育機關の全的訓練を見ました。私も亦その頃ベスタロッチの學校の教授案を使用して居りました。この教授案はいくらか偏執的な嫌ひはありますが私の意見では非常に優れてゐる點があると思ひます。

優れてゐると思つたのはワンデルンデ、クラツセンの仕組であります。各科毎に教授は何時と一緒に完全な設備を以て行はれました。故に教授科目は各級に定められてゐたのでありましたが生徒は彼等の勉強してゐる科目に就て熟達の程度に従つて種々の級に分配されて居りました、それ故に生徒の全體は各科毎に更らに截然たる區劃に區分されてゐるのでした。

この仕組の利益はそれ以來私が私の教育事業に於てそれを決して撤回することなく又今でも撤回しやうとすることは出来ない位に否むべからざる

底に力強く私を刺戟しました。私の直覺的に反對して居りました教授案の偏執的の方面は私自身の同案に對する傾向がまだ朦朧として決つてゐませんでした。その不完全で片手落であることは認めてゐました、圓滿無缺の發達に必要な教育の數科ははるか後方に据ゑられて繼子扱ひにされ表面だけで取扱はれてゐるやうに私には見えませんでした。

# 幼 稚 園 用 品

## 家 庭 用 玩 具

東 京 九 段

### フ レ ー ル 館

新築後工場も整頓致し店も精々片々付き申候間益々  
業務に奮勵仕り物品を精選し格價を最も低廉に  
需に應じ可申候に倍舊の御愛顧を願上候

## 日 本 玩 具 研 究 會

### 會 員 募 集

會費は一ヶ月五拾錢にて研究した面白い御爲めになるよい玩具が毎月得られます(申込次第規則書送る)

#### 本 會 評 議 員

巖谷 小波	甲賀 藤子	吉田 熊次
多田房之助	野口 ゆか	倉橋 惣三
黒田 定治	久留島 武彦	山脇 春樹
町田 則文	小西 信八	三土 忠造
三輪田 元道	莊司市太郎	森村 開作

#### 本 會 幹 事

稻垣 知剛	和田 實	河野 清丸
高市 次郎	曾根松太郎	武藤 忠義
野村 忠寛	松田 茂	藤 五代策
岸邊 福雄	御園生金太郎	

申込所 東京九段 日本玩具研究會